

研究成果情報	農産	28	茶	品種
新技術・情報名	チャ新品種「めいりよく」の特性		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

新品種「めいりよく」は「やぶきた」に比べ、開張性、多収性、耐病性を有するため、本品種を導入することにより早期成園化が可能となる。

- (1) 開張性で分枝の発生が多く、株張りが優れるため早期成園化が可能である。さらに、挿し木発根性も優れ育苗が容易である。
- (2) 萌芽期、摘採期は「やぶきた」とほぼ同時期中生種に属し、樹勢は旺盛で幼・成木期を通じてきわめて多収である。
- (3) 炭そ病及び輪斑病に対して耐病性が優れるが、耐寒性、特に裂傷型凍害に弱い欠点がある。
- (4) 自然仕立ての場合、枝条がよく伸びるので、被覆下でも新芽の摘いが良好で摘採しやすい。
- (5) 製茶品質は煎茶、玉露ともに「やぶきた」よりやや劣る。

2) 技術・情報の適用効果

炭そ病、輪斑病が多発しやすい山間部で「やぶきた」に替えて「めいりよく」を導入することにより、農業の散布回数及び散布量を節減することができ、より安全な茶の生産と経営の安定化が期待される。

3) 適用範囲

山間部の病害常発地

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 裂傷型凍害に弱いので、定植当年及び翌年の防寒対策を充分に行う。
- (2) 樹姿が開張性であるので、直立性品種より高めの仕立てを行う。

2. 具体的データ

表1 生育特性

品 種 名	樹 姿	発根 性	萌芽 期	摘採 期	年次別株張				
					昭57	58	59	60	61
			月日	月日					cm
めいりよく	開張性	良	4. 6	5. 3	112	118	114	120	123
やぶきた	直立性	良	4. 6	5. 4	91	91	99	105	114

表2 病害抵抗性及び裂傷型凍害の発生程度(昭和57年～61年)

品 種 名	炭そ病	輪斑病	裂傷型凍害	
			発生株率	枯死株率
			%	%
めいりよく	中～やや強	強	93	23
やぶきた	弱	弱	33	10

表3 生葉収量及び製茶品質

品 種 名	煎茶(一番茶)		玉露	
	収量	製茶品質	収量	製茶品質
	kg/10a	点	kg/10a	点
めいりよく	473	78.7	824	77.0
やぶきた	334	81.3	703	79.0

注)①煎茶は昭和57年から平成3年, 玉露は平成元年から3年の平均。

②品質は形状, 色沢, 香気, 水色, 滋味を各20点, 計100点とした。

3. その他特記事項

担当部科室名: 八女分場 栽培研究室

研究担当者名: 中村晋一郎, 久保田 朗, 杉山喜直

研究課題名: 優良品種選定試験

期間: 昭和57年～平成3年 予算区分: 経常

既発表論文・資料名等: 昭和57年～平成3年度福岡県農総試八女分場試験

成績書

取りまとめ責任者名: 中村晋一郎